

# 宮城県登米市中田町石森館跡現地説明会

平成20年8月23日(土)午前10時30分より  
宮城県教育庁文化財保護課

## 調査要項

- 1 遺跡名 石森館跡(宮城県遺跡地名表登録番号:54001 遺跡記号:RS)
- 2 所在地 登米市中田町石森字前田
- 3 調査原因 県道石森永井線改良工事
- 4 調査主体 宮城県教育庁文化財保護課
- 5 調査協力 登米市教育委員会
- 6 調査期間 平成20年5月26日～8月末
- 7 調査面積 事前調査(道路部分)2085㎡ 確認調査(民地部分)385㎡

## (1)石森館跡の位置

石森館跡は、登米市中田町石森地区に位置し、周辺には二ツ木館跡、小塚館跡等の中世の館跡が点在しています。本館跡は石森小学校裏手の丘陵に立地し、今回の調査対象地は、館跡南側の緩やかな斜面にあります。



第1図 遺跡の位置(塗りは中世の館跡)



作業風景

## (2)石森館跡の歴史

(『中田町史 改訂版』2005年発行より)

館の主は、古くは平安時代末の奥州藤原氏の家臣猪塚氏などが挙げられますが、定かではありません。その後、承久三(1221)年には、葛西氏一族の石森氏の居館となったという記録があります。しかし、天正一八(1590)年に豊臣秀吉の奥州仕置によって主君葛西氏が没落し、直後に起こった「葛西・大崎一揆」で、石森氏は小塚氏・二木氏とともに伊達政宗軍に対抗したものの、結果的に敗れました。石森村は伊達藩の支配下に入り、寛永二一(1644)年には家臣の笠原氏が領知替で移ってきました。そのため、地元では本館跡を「笠原城」と呼ぶこともあります。

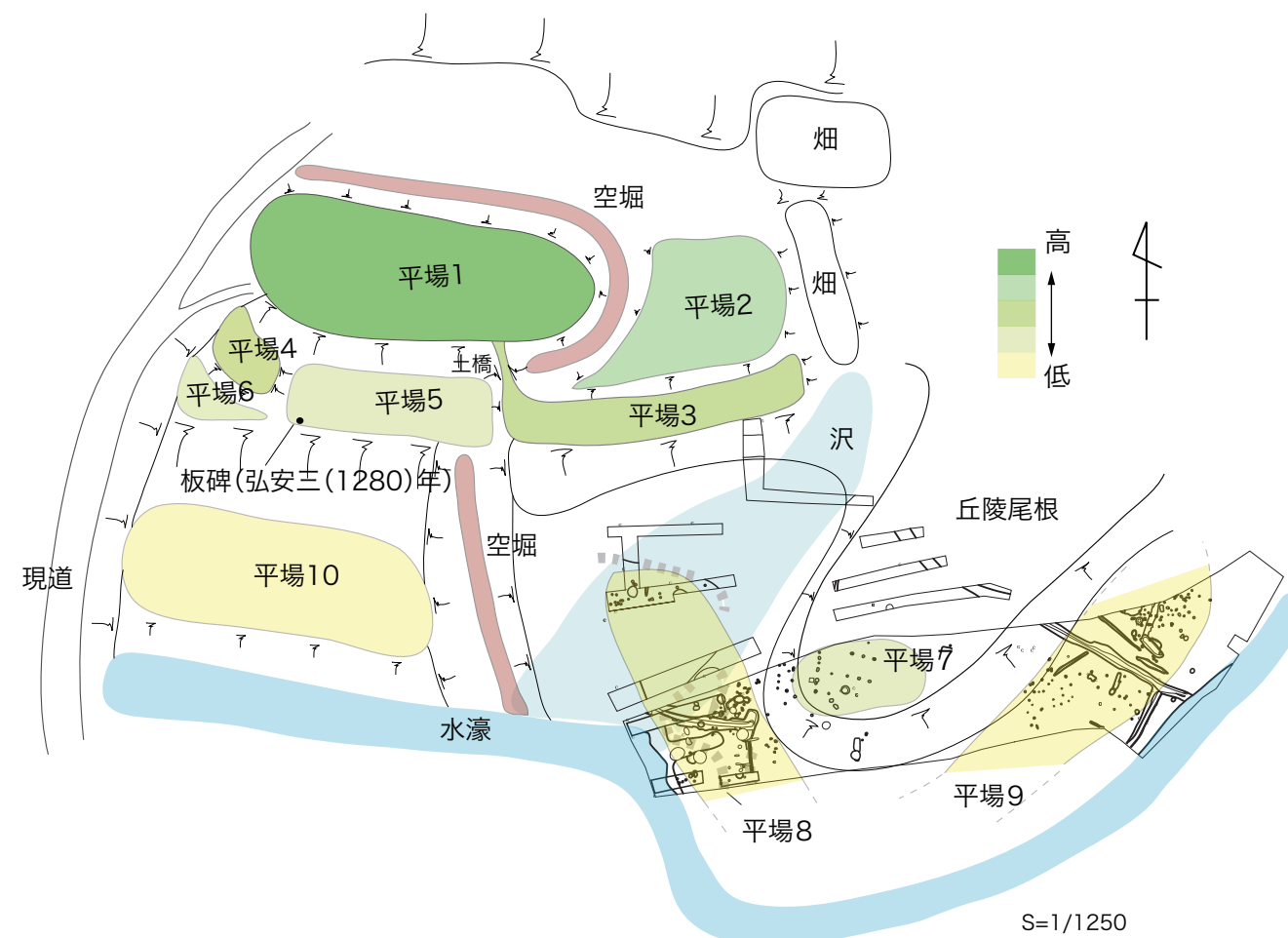


第2図 『登米郡石森村笠原縫殿在郷屋敷絵図』(1681年)  
(宮城県図書館所蔵)

## (3)石森館跡の構造

石森館跡は東西約200m×南北約150mの丘陵を利用して作られています。現在もいくつかの平場や空堀など残っていて、当時の様子をうかがい知ることができます(第3図)。

江戸時代の屋敷絵図(第2図)によると、丘陵頂上部の平坦地に笠原氏の「居屋敷」があり、周囲を家臣の「家中屋敷」が取り囲んでいます。さらに外側には水濠が巡り、現在もその一部が残っています。また、それらの南側には宿場町「石森町」が広がっていました。



第3図 石森館跡全体図と調査区



調査区全景(南西から)



金箔を貼った板碑  
(板碑は中世の供養塔です)



#### (4) 発見された遺構と遺物

今回の調査区は館跡の南側で、「屋敷絵図」(第2図)の「家中屋敷」部分にあたります。調査区の東西部分は、水濠跡に向かって緩やかに傾斜する平坦面となっており、丘陵の先端にあたる中央部は周囲より一段高く、小さな平坦面が造られています。

##### ①中世～近世(鎌倉時代～江戸時代)

【調査区西】水濠跡、溝跡、井戸跡、柱穴、整地が発見されました。SD1水濠跡は、現在も残る水濠と一連のもので、「屋敷絵図」に描かれているものにあたると考えられます。濠跡からは金箔をはりつけた板碑や、陶器、茶臼などが出土しました。これより古い遺構としては、沢を埋め立てた整地と、T字形のSD23溝跡があります。SD23溝跡から、板碑(貞治三(1364)年)、五輪塔、陶器などが出土しています。

【調査区中央】掘立柱建物跡が2棟見つかりました。

【調査区東】水濠跡、溝跡、掘立柱建物跡、井戸跡などが見つかりました。SD27溝跡はT字形で、その溝によって区画された範囲に、掘立柱建物跡と井戸跡があります。当時の屋敷地と思われます。中国産の磁器や東海産の陶器などが出土しました。

##### ②古代(平安時代)以前

西側では、古代と考えられる掘立柱建物跡が2棟見つかりました。

中央では、平安時代の竪穴住居跡が1軒発見されました。南側が大きく壊されていますが、北辺にカマドやそこからのびる煙道が確認できました。屋根を支える柱穴も見つかっています。土師器(素焼きの土器)や須恵器(窯で焼成した灰色の焼き物)が出土しています。

また、これ以外に遺物ですが、縄文時代の磨製石斧や土器も出土しています。

#### (5) まとめ

①石森館跡(笠原城)の遺構として、掘立柱建物跡、水濠跡、溝跡、井戸跡、整地などが見つかりました。遺構から複数の時期の変遷が想定されます。丘陵裾部に水濠を巡らし、沢部分への盛土整地や丘陵尾根部分の削り出しなどの造成を行なうなど、防御施設や居住地を造りだしていた様子が明らかになりました。

②板碑や五輪塔といった信仰に関する遺物、茶臼や中国産の磁器といった高価な品物、東海産の陶器や地元産の陶器など様々なものが出土しており、当時の武士の信仰や生活の一端を見ることができます。

③古代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡が見つかりました。さらに、縄文時代の土器や石器も出土しており、この地が古くから人々の生活の舞台であったことがわかりました。

#### (6) 最後に

今回の調査では、これまで発掘調査が少なかった中田町で、昔の人たちの具体的な生活の様子的一端が明らかになり、多くの成果をあげることができました。石森地区には石森館跡以外にも、縄文時代から近世までの遺跡が数多くあります。縄文時代の石森貝塚、古墳時代の白地横穴墓群、中世の館跡である二ツ木館跡、小塚館跡、飯塚館跡などです。こうした遺跡は、地域にとってかけがえのない大事な歴史的文化遺産です。地元の皆さんとともに後世に守り伝えたいと考えています。

